古文入門　宇治拾遺物語　絵仏師良秀（自習用プリント）

◇全文（教科書一六～一八頁）を音読しよう。

◆要点の整理

1　次の文の空欄に本文中の語句を補え。

昔、絵仏師の良秀という人がいた。ある日、自分の家が火災に遭ったが、[①]や仏画を顧みることもせず逃げ出した。家が焼けるのを見て、うなずいて[②]っていた。人々が不審に思って尋ねると、[③]の描き方がわかってもうけものをした、この職業で絵に秀でれば[④]も建てられる、と豪語した。このことの後、良秀の描く不動尊の絵は[⑤]と言って人々に賞賛されている。

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕
④〔　　〕⑤〔　　〕

◆表現

1　現代語訳文（四頁目に記載）を参考に、次の語の品詞と意味を書け。

ⓐおほかた（一六・5）
品詞〔　　〕
意味〔　　〕

ⓑ眺め（一六・6）
品詞〔　　〕
意味〔　　〕

ⓒあはれ（一六・8）
品詞〔　　〕

意味〔　　〕

ⓓ 年ごろ（一六・9）

品詞〔　　〕

意味〔　　〕

ⓔ わろく（一六・9）

品詞〔　　〕

意味〔　　〕

ⓖ こ（一七・1）

品詞〔　　〕

意味〔　　〕

2　次の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いで記せ。

①おほひて　〔　　〕

②なんでふ　〔　　〕

③かうこそ　〔　　〕

④せうとく　〔　　〕

⑤あらむ　〔　　〕

⑥わたうたち　〔　　〕

3　教科書一九頁を参考に、次の語句の言い切りの形（終止形）を答えよ。

①おはし（動詞）（一六・3）〔　　〕

②眺め（動詞）（一六・6）〔　　〕

③あさましき（形容詞）（一六・6）〔　　〕

◆読解

1　①「あさましきこと」（一六・6）、②「あさましきことかな」（一七・1）の「あさましきこと」とは、それぞれどういう意味か。現代語訳文を参考にして書け。また、現代語の「あさましい（浅ましい）」と、意味がどう違うかについても書け。

①での意味・・・〔　　〕

②での意味・・・〔　　〕

・現代語「あさましい（浅ましい）」との違い

〔　　〕

2　見舞いに来た者は良秀に何と言ったか。本文から抜き出せ。また、そのように言ったのはなぜか、まとめよ。

・言ったこと〔　　〕

理由〔　　〕

・言ったこと〔　　〕

理由〔　　〕

・言ったこと〔　　〕

理由〔　　〕

3　①「時々笑ひけり」（一六・8）、②「あざ笑ひてこそ」（一八・4）とあるが、それぞれの笑いに込められた良秀の気持ちを考えよ。

①「時々笑ひけり」

〔　　〕

②「あざ笑ひてこそ」

〔　　〕

4　良秀に対して、あなたが感じたこと・思ったことを書きなさい。

〔　　〕

【現代語訳】

これも今はもう昔の話だが、絵仏師の良秀という人がいたのだった。（自分の）家の隣から火が起こって、風がおおいかぶさるように吹いて（火が）迫ってきたので、（良秀は）逃げ出して大通りに出たのだった。（家の中には）人が（注文して良秀に）描かせている仏画もいらっしゃった。また、衣服も身につけていない妻や子どもなども、そのまま家の中にいたのだった。良秀はそれも気にせず、ただ（自分だけ）逃げ出したのをよいことにして、大路の向かい側に立っている。

見ると、すでにわが家に（火が燃え）移って、煙や炎がくすぶるまで、だいたいずっと、向かい側に立って眺めていたところ、「たいへんなこと（ですね）。」と言って、人々がやって来て見舞ったけれど、（良秀は）騒がない。「どうしたの（です）か。」と人々がたずねると、（良秀は）道の向かい側に立って、家が焼けるのを見て、うなずいては、時々笑った。「ああ、たいへんなもうけものをしたなあ。これまで長い間、平凡に描いてきたものだなあ。」と言う時に、見舞いに来た者たちは、「これはいったいどうして、このように（何もせず）立っていらっしゃるのか。驚きあきれた（呆然とした）ことだなあ。物の怪がとり憑いていらっしゃるのか。」と言ったところ、（良秀は）「どうして物の怪がとり憑くはずがあろう。（いや、とり憑くはずがない。）長年の間、不動尊の火炎を下手に描いていたのだ。今見ると、このように燃えていたのだなあと、わかったのだ。これこそ、もうけものよ。この（仏画の）道を専門にして世の中で生きていくとしたら、仏（の絵）さえ上手に描き申し上げるならば、百や千の家もきっと造り出せるだろう。あなたがたこそ、たいした才能もおありでないので、物などを惜しみなさるのだ。」と言って、あざ笑って立っていたのだった。

その後のことであったろうか、良秀の「よじり不動」といって、（彼の絵を）今にいたるまで人々は賞賛しあっている。